

第2学年国語科学習指導案

1 単元名 ようすを考えて読もう「お手紙」

2 単元の展開にあたって

— 教材のよさ —

本教材は、誰からも一度もお手紙をもらったことのないとてもふしあわせな気持ちのがまくんの姿を見て、一生懸命励まそうと優しい言葉をかけるかえるくん、そしてそのかえるくんからのお手紙によって自分の近くに親友がいたことに初めて気付くがまくんといった二人の温かい心の交流が描かれた作品である。かえるくんのお手紙の「親愛なるがまがえるくん」「ぼくの親友」などの言葉に、「ああ。」「とてもいいお手紙だ。」と言うがまがえるくん。子ども達にとって二人の気持ちはどちらもよく共感できる話と考える。

さらにわずかな距離を、「まかせてくれよ。」「すぐやるぜ。」と言いながら、四日もかかってしまうユーモラスなかつむりくんの行動は、楽しさをよりふくらませ、子ども達に興味深く読み進めさせてくれる。十枚におよぶ挿絵からは、話のおおまかな筋がとらえやすく、文は短い会話文を中心に構成されており、人物に同化しやすい時期である子どもたちが興味をそそられると考えられる。

そこで本学習では、できるだけ、登場人物に寄り添いながら読み進めていきたい。その中で展開のおもしろさががまくんの気持ちの変化を読み取らせながら、二人の気持ちが通じ合っていく喜びを感じ取らせたい。

— 学年の子どもの実態 —

本学年の子ども達は、「ふきのとう」や「スイミー」で、題名と冒頭をつないで読みのめあてをつくり、場面ごとに登場人物の言動と挿し絵をつないで、場面の様子や登場人物の気持ちを読み確かめてきた。そして、互いの読みを交流しながら自分の読みを深めていく学習をしてきた。

これらの学習の中で、子ども達は役割読み、動作化、ペープサートを取り入れることによって、自分なりの読みのつくり、登場人物の思いや考えを想像することができるようになってきており、それを音読で表したり、動作化したりすることは大好きで進んで行うようになった。しかし、自分なりの読みを表現したり、読み深めたことを文章でまとめたりすることは苦手で、十分にできているとは言えない。

交流の場では、二人組になって自分なりの読みを交流し、考えを広げる姿も見られるようになっているが、全体では進んで発表する子が限られており、交流を全体のものとして広げていくことが課題である。

— 学習内容と指導・支援の考え方 —

本単元の指導にあたっては、文と挿し絵をつないで、がまくんとかえるくんの気持ちや温かい心のふれ合いを、想像を広げて読ませ、交流を通してその読みを深めさせていきたい。

そのために、まず、場面に合わせて二人組や列ごとに役割読みをさせたり、動作化を入れたりして、登場人物のやりとりをたっぷり楽しませたい。

次に、挿し絵と登場人物の言動をつないで場面の様子や二人の気持ちを想像をしながら読ませ、そこで生まれた自分の読みを、かえるくんやがまくんの言葉にして吹き出しの中に書かせたい。その際、自分の読みを確かなものにするために、二人組での話し合いを取り入れ、互いの読みを交流させたい。ここでは読みが広がったり、新しく生まれたりして、交流の場で自分の読みを発表することが楽しみになるようにさせる。

全体で交流する時には、「同じです」「似ています」「付け加えがあります」「他の意見があります」など、友だちの発表に反応しながら聞いたり、意見を出したりすることで、自分の考えを相手に分かりやすく伝えることができるようにさせる。さらに全体交流で読みが付加されたり、別の視点が出されたりすることによって、自分なりの読みに見直し、広げさせていきたい。

最後に、板書を手がかりとして、自分の読みに見直し、読みのめあてのまとめをさせたい。

3 単元の目標

- 登場人物の気持ちや場面の様子を想像したり、声に出して読んだりして、かえるくんのがまくんを思う気持ちやそれを受け止めたがまくんの気持ちと二人の友情を読み取ることができる。
- ◎ 読み取ったことや、登場人物になりきって想像したことを書き表し、それをもとに交流して、自分なりの読みを広げることができる。

4 学習計画（全16時間）

段階 時間	主な学習活動と内容	指導上の留意点（※伝え合う力を育てる支援）
1 ・ 2 / 16	<p>◎ 読書への関心を持ち、題名と冒頭の文をつないで読みのめあてをつくる。</p> <p>1 「なくしたボタン」の読み聞かせを聞く。</p> <p>2 題名から「お手紙」がどんな話か、想像して話し合う。</p> <p>3 題名での話し合いと冒頭のがまくんのお手紙に対する気持ちをつないで、読みのめあてをつくる。</p> <p>—— 読みのめあて ——</p> <p>かなしい気分でげんかんの前にこしを下ろしているがまくんとかえるくんは、これからどうなるのだろう。</p>	<p>○ アーノルド＝ローベルのかえるくんシリーズの中から、1作品読み聞かせて、読書への関心を持たせる。（「なくしたボタン」）</p> <p>○ 今までに自分がもらったり、出したりした手紙について経験を出させる。</p> <p>○ 「お」に着目することでその意味を考えさせ、お手紙が何か大事なものであることを捉えさせる。</p> <p>○ お手紙に対するがまくんの気持ちと自分の手紙に対する気持ちを比べ、がまくんへの疑問を持たせる。</p>
か ま え る ・ 3 4 / 16	<p>◎ 全文を読み、挿し絵をもとにがまくんとかえるくんのしたことを順序よく捉え、読みの答えをまとめる。</p> <p>1 全文を読み通し、挿し絵をもとにお話の順序を確かめる。</p> <p>2 読みの答えをまとめる。</p> <p>—— 予想される読みのめあての答え ——</p> <p>かえるくんは、大いそぎで家へ帰ってがまくんへお手紙を書いて、かたつむりくんにたのんだ。それから、がまくんの家へもどって手紙がとどくのをまった。でも、なかなかこないのどうとうがまくんにお手紙を書いたことを話した。がまくんはとてもいいお手紙だと喜んだ。ふたりはともしあわせな気持ちでげんかんにすわっていた。四日たってかたつむりくんががまくんの家につき、お手紙をもらってがまくんはとてもよろこんだ。</p>	<p>○ 範読・音読の後に時・場所を表す言葉に着目させる。</p> <p>○ かえるくんとがまくんとかたつむりくんの会話をシールで色分けする。</p> <p>○ 8枚の挿し絵を順序よく並べ、お話の順序を捉えさせる。</p>
/ 16	<p>◎ 場面ごとに読み深めるためのめあてをつくる。</p> <p>1 場面ごとにもっと詳しく知りたいことや疑問に思うことを整理して学習計画を立てる。</p> <p>—— 読み確かめる視点 ——</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 大急ぎで家に帰って手紙を書いたかえるくんの気持ちを読み取る。 ○ 何度もまどから郵便受けをのぞくかえるくんの気持ちを読み取る。 ○ かえるくんからお手紙を出してくれたことを聞いたがまくんの気持ちを読み取る。 ○ 幸せな気持ちでお手紙を待っている四日間の二人の気持ちを読み取る。 	<p>○ 二人が悲しい気分からとても幸せな気持ちになったのはなぜかを考えさせることで、お手紙の役割と場面ごとの二人の行動に目を向けさせて、疑問を出させる。</p> <p>○ 疑問をもとに読み確かめの視点をつくり、場面ごとのがまくんやかえるくんのしたことから、そのわけや気持ちを読み確かめて行くことをとらえさせる。</p>

6 / 16 一 組 本 時	<p>◎ 大急ぎで家に帰って手紙を書いたかえるくんの気持ちを読み取る。(2の場面)</p> <p>1 本文を音読する。</p> <p>2 かえるくんの急いでいる様子を読み取り、その気持ちを想像して話し合う。</p> <p>3 かえるくんがかたつむりくんにお手紙を頼んだときの会話から、頼んだときの気持ちを考える。</p>	<p>※ かえるくんががまくんを思いやる気持ちを読み取ることができるように、役割音読をさせる。</p> <p>○ 書かれている順序にしたがって、かえるくんのしたことを読み取らせる。</p> <p>※ 「とび出しました」を動作化し、かえるくんの気持ちを想像して吹き出しに書かせる。</p> <p>※ 吹き出しに書いたことをもとに交流させる。</p> <p>○ お手紙を書いた後もがまくんを思う優しいかえるくんの姿に気づかせる。</p>
7 ・ 8 / 16 ふ か め る	<p>◎ 何度もまどから郵便受けをのぞくかえるくんの気持ちを読み取る。(3の場面)</p> <p>1 本文を音読する。</p> <p>2 3枚の挿し絵からかえるくんのしたことを読み取る。</p> <p>3 がまくんの様子と「ゆうびんうけを見ました。」「まどからのぞきました。」「まどからのぞきました。」というかえるくんの行動をつないで、何回も外を見ているかえるくんの気持ちを話し合う。</p>	<p>※ かえるくんとがまくんの対称的な気持ちを読み取ることができるように、会話文の役割音読をさせる。</p> <p>※ 「見ました」「のぞきました」を動作化し、読み比べる活動を取り入れ、かえるくんの気持ちの高まりを読み取らせる。</p> <p>※ 2回のぞいていることに着目し、会話文を役割を決めて音読させ、かえるくんのお手紙を待っている気持ちやがまくんを早く喜ばせたい気持ちを想像して吹き出しに書かせる。</p> <p>※ 吹き出しに書いたことをもとに交流させる。</p>
9 二 組 本 時 ・ 10 / 16	<p>◎ かえるくんからお手紙を出してくれたことを聞いたがまくんの気持ちを読み取る。(4の場面)</p> <p>1 本文を音読する。</p> <p>2 お手紙を書いたことを知らせるかえるくんの気持ちを考える。</p> <p>3 「とてもいいお手紙だ。」と言ったがまくんの気持ちを話し合う。</p> <p>4 「ふたりとも、ともしあわせな気持ちで、そこにすわっていました。」から、なぜ二人とも幸せな気持ちになったのかを話し合う。</p>	<p>※ かえるくんとがまくんの心の通い合いを読み取ることができるように、役割音読をさせる。</p> <p>○ すっかりあきらめているがまくんを見て、打ち明けずにはいられなくなったかえるくんの気持ちを読み取らせる。</p> <p>※ 「とても」を外したときとの違いをもとにお手紙の何がいいのか考え、かえるくんが親友と思っていることをとても喜んでいるがまくんの気持ちを想像して吹き出しに書かせる。</p> <p>※ 吹き出しに書いたことをもとに交流させる。</p> <p>○ 冒頭の挿し絵とこの場面の挿し絵を比べながら二人の気持ちの変化を考えさせる。</p> <p>※ 「ふたりとも」という叙述に着目させ、なぜ、かえるくんもとても幸せな気持ちになったのかを考えさせ、かえるくんの気持ちを想像して吹き出しに書かせる。</p> <p>※ 吹き出しに書いたことをもとに交流させる。</p>

ふかめる	<p>◎ とてもしあわせな気持ちでお手紙を待っている四日間の二人のん気持ちを読み取る。 (5の場面)</p> <p>11 挿し絵から、かえるくんとがまくんの過ごした四日間を話し合う。</p> <p>16 2 お手紙をもらったがまくんがとても喜んだ様子やそれを見たかえるくん、四日間お手紙を運んだかたつむりくんの様子を想像し3人の気持ちを話し合う。</p>	<p>○ 四日間のかえるくんとがまくんの様子を想像させ、お手紙をまっている二人の会話を考えさせながら、とても幸せな気持ちを読み取らせる。</p> <p>※ がまくんの喜びを共感できるように、お手紙を受け取る場面を動作化させる。</p> <p>※ 挿し絵をもとに3人の気持ちを想像して吹き出しに書かせる。</p> <p>※ 吹き出しに書いたことをもとに交流させる。</p>
まとめる	<p>◎ これまでの読み取りをもとに、読みのまとめをする。</p> <p>12 1 学習を振り返り、かえるくん、がまくんがしたこと、その時の様子や気持ちについて整理する。</p> <p>16 2 お手紙の果たした役目を話し合う。</p> <p>3 全文を音読する。</p> <p>4 読みのめあてに対するまとめを書いて発表する。</p>	<p>○ 挿し絵や学習プリントをもとに、各場面を振り返らせる。</p> <p>○ 題名「お手紙」の「お」の意味について考えさせる。</p> <p>○ 気持ちを込めて全文の役割読みをさせる。</p> <p>○ お手紙の話がよく分かるように、これまで読み取ってきたかえるくんとがまくんの様子や気持ちを加えながら、文章全体のあらすじを書きまとめさせる。</p>
	<p>◎ 学習したことを生かして、アーノルド＝ローベルの他の作品を読み、読書発表会をする。</p> <p>13 1 読書発表会の計画を立て、ローベルのかえるくんシリーズや他の作品を読む。</p> <p>14</p> <p>15</p> <p>16</p> <p>16 2 ローベルの作品を読み、どんな話かを紹介する文を書く。</p> <p>3 読書発表会で本の紹介をする。</p>	<p>○ ローベルのかえるくんシリーズや他の作品を読んで、あらすじをつかませ、シリーズ作品の楽しさをあじわうことができるようにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ふたりはともだち ・ふたりはいつも ・ふたりはいつしよ ・ふたりはきょうも ・ふくろうくん ・おはなしばんざい ・きりぎりすくん <p>○ 「お手紙」での学習を生かし、お話のあらすじを入れて、紹介文を書かせる。</p> <p>○ 紹介文をもとに話の楽しさを伝え合い、読書に関心を持たせるようにする。</p>

第2学年国語科学習指導案

5 本時 9 / 16

6 本時の目標

- 手紙が届くのを待ちきれずに打ち明けるかえるくんと、お手紙を出してくれたことを知ったがまくんの気持ちを読み取ることができる。
- ◎ かえるくんが親友とってくれていることを知ったがまくんの気持ちを吹き出しに書いて交流し、自分なりの読みを広げることができる。

7 本時学習を進めるにあたって

前時までに子どもたちは、あきらめて投げやりになっているがまくんと、早く手紙が着かないかと待ちながら、懸命にがまくんの気持ちを引き立てようとするかえるくんの様子と気持ちについて学習してきた。

本時では、すっかりあきらめているがまくんを見て、打ち明けずにはいられなくなったかえるくんと、かえるくんが書いたお手紙のことを知り「とてもいいお手紙だ。」と感動するがまくんの気持ちを読みとることをねらいとしている。


そのために、まず、本文を役割読みし、かえるくんとがまくんのしたことや話したことをとらえさせる。次に、「だって、今、ぼく、・・・」の「今」や「きっと来るよ。」に込められた気持ちを想像することで、がまくんの問いかけに、打ち明けずにはいられなかったかえるくんの気持ちをとらえさせたい。

そして、かえるくんからお手紙のことを聞いたがまくんの様子を、「きみが。」の音読の仕方からとらえさせたい。さらに、「ああ。」「とてもいいお手紙だ。」と言うがまくんの言葉から、お手紙の何がいいのかを考えることで「親友」と言う言葉に着目し、挿し絵とつないでがまくんの気持ちを読みとらせたい。がまくんの気持ちを想像して吹き出しに書かせる際には、二人組で交流する時間をとり、自分なりの読みをつくったり、確かなものにしたさせ、吹き出しをもとに交流するときに活発に発表できるようにさせたい。

交流の場に出た読みは板書に残しておき、親友がいることに気付いて幸せな気持ちになったがまくんの気持ちが分かる言葉に赤でサイドラインを引いておく。

まとめでは、板書をもとに、自分にも親友がいることに気付いたがまくんの感動や喜びの気持ちを書きまとめさせたい。

8 板書計画




まとめ
お手紙のことを知ったがまくんは、かえるくんが大切な親友とってくれていることが分かってとてもうれしかった。

「ああ。」

「とてもいいお手紙だ。だってね、かえるくん、ぼくのことを親友ってかいてくれたからうれしかったよ。大切な親友とってくれていることが分かったからね。親友だということを知らせてくれてお手紙をあんなに待っていてくれたのがわかったよ。」

がまくん ↔ かえるくん

『親愛なる がまがえるくん。ぼくは、きみが ぼくの親友であることを、うれしく思っています。きみの親友、かえるくん。』



めあて
お手紙を出してくれたことを知ったがまくんの気持ちを考えてよう。

「かえるくん、どうして、きみ、ずっと、まどの外を見ているの。」

「だって、今、ぼく、お手紙をまっているんだもの。」

「でも、来やしないよ。」

「きっと来るよ。」

「だって、ぼくが、きみにお手紙出したんだもの。」

「きみが。」

「お手紙に、なんて書いたの。」

9 本時の展開

配時	主な学習活動と内容	指導上の留意点 (※伝え合う力を育てる支援)
3	1 前時学習を想起し、本時のめあてを確かめる。	○ 挿し絵から本時場面がどんな話か発表させる。
	お手紙を出してくれたことを知ったがまくんの気持ちを考えよう。	
10	2 本時を音読し、かえるくんとがまくんの気持ちを話し合う。 (1) 手紙が届くのを待ちきれずに、手紙を書いたことを打ち明けるかえるくんの気持ちを話し合う。 ・もうすぐお手紙は届くんだよ。 ・あとちょっとで来るから待ってみようよ。 ・ぼくが出したんだから絶対来るよ。 ・かたつむりくんが頑張ってるんだからここまで届けてくれるよ。	○ かえるくん、がまくん、地の文の3つのグループに分けて音読させる。
7	(2) かえるくんからお手紙のことを聞いたがまくんの様子を話し合う。 ・驚いた様子 ・とてもうれしそうな様子 ・何故だろうという様子	○ 「だって、今、ぼく…」の「今」が無いときと比べて、「今」に込められたかえるくんの気持ちを、想像させる。 ○ 「きっと来るよ」と言ったかえるくんの気持ちを考えさせる。 ○ 二つの気持ちをつないで、かえるくんが打ち明けてしまったわけを考えさせる。
20	(3) 「ああ。」「とてもいいお手紙だ。」と言ったがまくんの気持ちを吹き出しに書いて話し合う。 ・きみが ぼくの 親友 、かえる。 ・きみの 親友	※ 「きみが」を列指名で音読させ、その読み方の違いからがまくんの様子を想像させる。
5	・ <u>ぼくのことを親友</u> って書いてくれたからとてもうれしかったよ。 ・ <u>ぼくのことを大切な親友</u> だと思ってくれていることが分かったからね。 ・ <u>親友だということ</u> を知らせてくれてあんなにお手紙を待っていてくれたのがわかったよ。	○ 「ああ。」と挿し絵をつないでがまくんの様子を想像させる。 ○ 「とても」を外して読んだ時との違いをもとに、お手紙の何がいいのかを考え、かえるくんが親友とってくれていることを知った喜びの気持ちを読み取らせる。
5	3 本時のまとめをする。 (1) 本時学習で読み深めたことをまとめに書く。	※ 「とてもいいお手紙だ。」の言葉の後につなげて想像したがまくんの様子を、まず二人組で話し合った後、吹き出しに書かせる。 ※ 列指名で発表させ、付け加えや別の考えは挙手で出させる。 ※ 板書で、がまくんが親友がいることに気付いて幸せな気持ちになったことが分かる文に赤でサイドラインを引いておく。
	お手紙のことを知ったがまくんは、かえるくんが大切な親友とってくれていることが分かってとてもうれしかった。	
	(2) 今日の学習を振り返る。	○ 板書を手がかりに、親友がいることに気付いたがまくんの様子を入れてまとめさせる。 ○ 自己評価をさせる。

第2学年国語科学習指導案

5 本時 6 / 16

6 本時の目標

- 大いそぎで家に帰ってがまくんにお手紙を書き、かたつむりくんに頼むかえるくんの様子や気持ちを読み取るができる。
- ◎ がまくんを喜ばせようとするかえるくんの気持ちを吹き出しに書いて交流し、自分なりの読みを広げることができる。

7 本時学習を進めるにあたって

本時は、大いそぎで家に帰ってがまくんにお手紙を書き、かたつむりくんにお手紙を頼むかえるくんの様子から、がまくんを喜ばせようとするかえるくんの気持ちを読み取ることをねらいとしている。

子どもたちは前時までに、がまくんとかえるくんのしたことを順序よく捉え、読み深めるためのめあてを作り、学習計画を立ててきている。


そこで本時ではまず、かえるくんのいそぐ様子を読み取り、「早くがまくんを喜ばせたい」というかえるくんの気持ちをとらえさせたい。その際、板書でかえるくんが家に帰ってからしたことを時間順に確かめ、短い叙述が続いていることをおさえる。また、「とび出しました」は似ていることばの「出ました」と動作化して比べることで、大いそぎの様子を読み取らせたい。かえるくんの気持ちを想像して吹き出しに書かせる際には、自分の考えを持ったり、自分の考えに自信を持ったりできるように、二人組になって話し合う時間をとりたい。

交流の場では、自分と友達のを考えを比べて「同じです。」「似ています。」「付け加えがあります。」「他にもあります。」と反応し、発表するようにする。その際、自分と友達のが考えが比べられるよう、分けて板書し、子ども達のが考えが広がるようにしたい。

さらに、かえるくんがかたつむりくんにお手紙を頼んだ様子を読み取り、そのわけを考えさせる。大いそぎでお手紙を準備してとび出したにもかかわらず、自分で届けずに、足の遅いかたつむりくんにお手紙を頼んだのはなぜかを話し合わせたい。

本時学習のまとめでは、板書を使って、お手紙を書くかえるくんの気持ちを確認し、書きまとめさせたい。

8 板書計画




「かたつむりくん、このお手紙をがまくんの家へもって行って、ゆうびんうけに入れてきてくれないか」

「おねがひだけども、お手紙をがまくんの家へもって行って、ゆうびんうけに入れてきてくれないか」

「まかせてくれよ。」「すぐやるぜ。」

「それから、かえるくんは、がまくんの家へもどりました。」

がまくんをよろこばせたい。



「ぼく、もう家へかえらなくっちゃ、がまくんがまくんにお手紙を書くことしなくちゃいけないことが、あるんだ。」

かえるくんは、**大いそぎ**で家へ帰りました。

えんぴつと紙を見つけた。紙に何か書きました。紙をふうとうに入れました。ふうとうにこう書きました。「がまがえるくんへ」

かえるくんは、家から**とび出**しました。

「がまくん、よろこんでくれるかな。」

・早くとどけたいよ。

・がまくんまつてね。

・楽しみにしててね。

かえるくん

ようすを考えて読もう
「お手紙」
アーノルド・ローベル 作

めあて
大いそぎで家へ帰って、がまくんにお手紙を書いたかえるくんの気持ちを考えよう。

まとめ
かえるくんはがまくんをよろこばせようと思って、大いそぎで家に帰ってお手紙を書いた。そして、ゆうびんうけにとどくほうがまくんがよろこぶと思つて、かたつむりくんにお手紙をたのんだ。

9 本時の展開

配時	主な学習活動と内容	指導上の留意点（※伝え合う力を育てる支援）
3	1 前時学習を想起し、本時の学習のめあてを確認する。	<ul style="list-style-type: none"> ○ お手紙を待っているがまくんの悲しい気持ちや、かえるくんまで悲しくなったことを想起させる。 ○ 学習計画をもとに本時学習のめあてを確認させる。
<p>大いそぎで家へ帰って、がまくんにお手紙を書いたかえるくんの気持ちを考えよう。</p>		
2	2 2の場面を音読する。	<ul style="list-style-type: none"> ○ かえるくん、かたつむりくん、地の文の3つのグループに分けて音読させる。
25	<p>3 かえるくんのいそぐ様子を読み取り、その気持ちを考える。</p> <p>(1) かえるくんが家に帰ってからしたことを時間順に確かめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・えんぴつと紙を見つけました。 ・紙に何か書きました。 ・紙をふうとうに入れました。 ・ふうとうにこう書きました。 <p>(2) 大いそぎでお手紙を準備し、家からとび出したかえるくんの気持ちを想像して話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・がまくんを早くよこばせたい。 ・早くお手紙をとどけたいな。 ・がまくん、まってね。 ・楽しみにしててね。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「ぼく、もう家へ～あるんだ。」という言葉から、がまくんに内緒でお手紙を書くことを思いついたことに気付かせる。 ○ 大いそぎの「大」がつく場合とつかない場合とを比べて、かえるくんがとても急いでいることをおさえる。 ○ 板書でかえるくんが家に帰ってからしたことを時間順に確かめ、短い叙述が続いていることをおさえる。 ○ 挿し絵から、かえるくんが、集中して、お手紙を書いていることに気付かせる。 ※ 「とび出しました」は似ていることばの「出ました」と動作化して比べ、大いそぎの様子に気付かせる。 ※ 二人組で話し合わせる。 ※ 吹き出しにかえるくんの言葉で、がまくんを思う気持ちを書かせる。 ※ 自分と友達の考えを比べて「同じです。」「似ています。」「付け加えがあります。」「他にもあります。」と反応し、発表するようにする。
10	<p>4 かえるくんがかたつむりくんにお手紙を頼んだ様子を読み取り、頼んだわけを考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ゆうびんうけにとどいたほうが、よこぶだろう。 ・かたつむりくんが足がおそいことをわすれていた。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 大いそぎでお手紙を準備したのに、自分で届けず、かたつむりくんにお手紙を頼んだことに着目させる。
5	<p>5 本時のまとめをする。</p> <p>(1) 本時の学習を振り返り、まとめを書く。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 板書を使って、本時で確かめられたことを確認する。
<p>かえるくんはがまくんをよこばせようと思って、大いそぎで家に帰ってお手紙を書いた。そして、ゆうびんうけにとどくほうががまくんがよこぶと思って、かたつむりくんにお手紙をたのんだ。</p>		
<p>(2) 今日の学習を振り返る。</p>		<ul style="list-style-type: none"> ○ 自己評価をさせる。